

射水市立歌の森小学校活動報告

◆活動取組の紹介

毎月10日はアルミ缶・ベルマークの回収

ボランティア委員会の児童が、ベルマークやアルミ缶の回収をポスターや放送で全校へ呼びかけ、毎月10日の登校後の時間に回収活動を行っている。全校児童が、自分たちでできることに取り組もうとする意識を高めることができた。回収に協力してくれた児童には「ありがとう」とお礼を言いながらシールを渡し、色団ごとにベルマークのキャラクターに貼ってもらった。また、回収ボックスに集まったアルミ缶を、射水万葉苑の方に来ていただき、受け渡すことができた。他にも、10・11・12月は射水市環境課から依頼があったので、エコキャップの回収も行った。再生利用されてでき上がったポリ袋を全校児童に一人1枚配布し、大事な資源を大切に使うことを実感した取組だった。

ちょこボラ週間

ちょっとしたボランティア(ちょこボラ)を積極的に行う5日間を「ちょこボラ週間」と命名し、ボランティア委員会の児童が、「気軽にできるボランティアを行おう」と呼びかけ、全校で取り組む活動を、数年間継続している。1日1回以上ちょこボラを行ったら、各学級の「ちょこボラの風船」にシールを1枚ずつ貼り、色付けをしていった。3学期間を通して行うことで、学級の「ちょこボラの風船」がどんどん色付いていった。自分たちの行動の結果が風船の色に表れるので、達成感も味わえた。週間終了後は、各学級の「ちょこボラの風船」を全校児童が見る掲示板に貼り、より温かい気持ちの一体感を味わうことができた。

◆活動していてやりがいや喜びを感じる時

児童の声より

- ・ボランティア回収のとき、下級生に「ここにベルマークを入れて」と教えたり、「あそこに貼るよ」とシールを渡したりするとき、優しくできた。これからも相手に優しくということが続けたいと思った。
- ・ベルマークがたくさん集まったとき、「これが人の役に立つんだなあ」と思うと、うれしくなってやりがいを感じる。
- ・募金などの活動があったときには、しっかりと参加して役に立ちたい。これからもボランティア活動を続けて、世界で苦しんでいる人の役に立てるようになりたい。

◆最後にひとこと

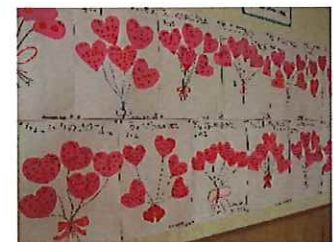
人と人が直接触れ合う活動が行いにくい中で、できる活動から取り組んだ。コロナ禍で活動は制限されたが、どんな小さな行動も、誰かの役に立っていると考えられるようになった。SDGsの理念も世界的に浸透しつつある今日、子供たちと共に信念をもち、やりがいを感じられる心温まる活動に、今後も取り組んでいきたい。



毎月のアルミ缶・ベルマーク回収活動



射水万葉苑へアルミ缶受け渡し



ちょこボラ週間の掲示